

# 田原市地域公共交通会議における地域公共交通活性化・再生総合事業 基本方針「だれもが安心して移動できるまち」〈鉄道関係分〉

事業期間  
20～22年度

「だれもが安心して移動できるまち」とは、地域公共交通ネットワークを「つくり」「守り」「育てる」ために、市民はもとより、観光客や来訪者を含めすべての人が安心して移動できる地域公共交通システムの実現を目指すことです。そのために、利用者の視点に立って現状の地域公共交通について検証し、それぞれの役割に応じた整備を行うことにより、一体的な地域公共交通システムの確立を目指す。

## 【田原市地域公共交通会議】

田原市、豊鉄バス、渥美交通、愛知県バス協会、愛知県タクシー協会、豊橋鉄道、名鉄海上観光船、田原市老人クラブ連合会、田原市地域コミュニティ連合会、田原市商工会、田原市青年会議所、田原市民生児童委員協議会、中部運輸局、豊橋鉄道労組、愛知県地域振興部、愛知県田原警察署、愛知県東三河建設事務所、名古屋大学大学院准教授

## 事業の概要(22年度)

### ①ICカード導入(45,361千円)



渥美線にICカードを導入し、そのカードにより他社路線との相互利用を可能することによって、公共交通利用者の利便性の向上を図る。  
(2月11日からサービス開始)



### ②割引きっぷ等設計(菜の花)(202千円)



「渥美半島菜の花まつり」にあわせてラッピング電車を運行するにあたり、バスとの乗継割引きっぷを発行。  
(1月～3月)

### ③ラッピングトレイン(なぎさ号・なのはな号)の運行(2,058千円)



【なぎさ号】観光客の誘致と利用客増加を目的に、渥美半島の夏の観光シーズンに全面ラッピング電車を運行。(7月～9月)

【なのはな号】観光客の誘致と利用客増加を目的に、1月開催される「渥美半島菜の花まつり」にあわせて、全面ラッピング電車を運行。(1月～3月)

## 22年度 導入への プロセス

ICカードシステム導入は、地域の公共交通の飛躍的な近代化と利便性向上を図る。そのICカード乗車システムは改札機にタッチするだけで、利便性は先行する関東や関西など他の地域でも実証されており、さらには交通機関に利用にとどまらず、付帯される電子マネー機能を併用する「まちづくり」への利活用など、地域の活性化へ向けても多様な可能性を秘めている。

昨年に引き続き、渥美半島の夏の観光シーズンにあわせ、観光客の誘致と旅客増加を図るべく、豊鉄バスなぎさ号と連携し、全面ラッピングによる「10なぎさ号」を運行。外装においては親しみと楽しさを演出するように、渥美半島の海に生き物、景色をイメージしたキャラクターを、内装は海の中にあるような雰囲気を出すとともに、夏の渥美半島をイメージした車内吊りポスターで統一。地域の各種施策とタイアップし、話題性を高めることでさらなる誘客に寄与するとともに、地域観光における公共交通の利用促進を図る。また、同様に昨年に引き続き、渥美半島一帯で開催される「渥美半島菜の花まつり」の開催にあわせ、観光客に話題性や親しみ感、さらには割引きっぷの発売による利便性をも提供し、菜の花まつりをに訪れる観光客の増加と公共交通の利用促進を図る。

### 利便性の向上

交通と電子マネー機能を付帯したキャッシュレスな決済スタイル機能を持ち、利便性の高い交通系ICシステムは、日常の保有率が高く、結果として公共交通への利用に直結。これにより社会環境(自然・交通)の改善効果を高めることも想定される。

### 観光利用の促進、利用者減少の歯止め

ラッピングトレイン「なぎさ号」の事業実施にあたり、報道メディアに多数取り上げられたことで、地域観光情報の発信とともに、なぎさ号(電車・バス)の認知度は高まりを見せた。地域PRに加え、観光客誘致など、観光事業等に対しては大きな効果を発揮した。休日や夏休み期間中は、子ども連れの利用者がなぎさ号の運行ダイヤに合わせた行動をとるなど、子どもに触発されつつも、マイカーから公共交通への転換等が見られた。ラッピングトレイン「なのはな号」も事業効果は同様である。豊橋～鳥羽割引きっぷについては前年比203枚増と、ほぼ倍増。菜の花きっぷについては前年度比80枚増、25%アップとなったことから観光客の移動における公共交通利用への転換が図られた。さらに観光客を含む電車利用者の飛躍的な増加という本来も目的については、長期化している景気の低迷に伴う利用客の大幅な減少を想定したが、わずかな減に抑えられた。関連事業として、夏休み期間中や渥美半島菜の花まつり開催の1月～3月にサイクルトレインを運行し、また、観光協会ともタイアップし、沿線菜の花ハイキング大会、菜の花電車・バス写真コンクールなど多様なイベントの実施により、事業効果は一層高まった。

### ICシステムのPRの強化等により地域公共交通の活性化 ソフト事業の継続実施により地域公共交通の維持確保

電子マネーやフェリカポケット等を有効活用するスタイルを確立するため、交通事業者・商業者・行政等が一体となって取り組むことが重要である。交通利用と社会生活における決済システムの共通化は、双方に及ぼす効果は高く、駅から駅前、沿線そして地域へと、活性化に向けた効果の広がり期待できる。

ラッピングトレイン(バス)をはじめとする公共交通と観光事業の融合は、観光シーズンの交通渋滞の緩和や公共交通利用の増加に加え、沿線地域の方々へ親しみを印象付けるなど様々な効果が得られる。地域公共交通の維持・確保には、ソフト事業の継続が必要である。

## 次年度 以降